

会議録

令和8年7月21日

件 名	令和8年度第1回鹿児島市食育推進委員会	作 成 課	保健政策課
日 時	令和8年7月14日(火) 14時00分～15時15分		
場 所	市役所 東別館9階特別中会議室		
出 席 者	公募委員3名、学識経験者、消費者団体等の代表者1名、教育福祉関係団体の代表者3名、保健医療関係団体の代表者2名、農林水産業関係団体の代表者1名、食品関係団体の代表者1名 計12名（欠席5名）		
市出席者	事務局：保健政策課長、健康づくり係長、係員		
会 次 第	1 開 会 2 議 事 議題 (1) 第四次かごしま市食育推進計画の推進について 令和7年度実施状況・令和8年度実施計画 (2) 第四次かごしま市食育推進計画の最終評価について (3) 次期かごしま市食育推進計画の策定について ①今後のスケジュールについて ②施策の体系（案）について 3 その他 4 閉 会		
主な意見等	議題 1 第四次かごしま市食育推進計画の最終評価について (委 員) 目標項目④「食事をよく噛んで味わって食べる人の割合の増加」について、子どもたちの噛む力や口腔状態が低下しているときくことがあるが、学校等の中で取り組まれていることを教えて欲しい。 (委 員) 咀嚼回数などの普及啓発はあるが、提供する食材やその固さに関する啓発はあまりしていない。 学校歯科医による学校での活動において、咀嚼に関することや咀嚼回数を上げるための食材に関することの啓発については検討したい。 (委 員) 幼稚園では、噛む力が弱くなっている子が増えている現状がある。 栄養士と連携して、給食やおやつ等で噛む献立の提供や食材にふれるためのクッキングを行っている。 食育にふれる機会が減っていることや家庭での食事状況等も影響があるのではないかと考えている。 (委 員) 学校では、毎月8のつく日を「かみかみデー」として、噛むメニューを給食に取り入れているが、残食が多くなる傾向にある。 合わせて、給食時間に「かむといいこと」の放送やよく噛むことをテーマとして学級活動、給食だよりを通した家庭への働きかけを行っている。 (委 員) 令和8年診療報酬改定において、一般の歯科医院でも口腔の発達状況の検査が出来るようになり、基準を下回る子については、指導をする等に取り組むようになっている。		

(委員) 子どもが認識している食育と、普及啓発する側や指導する側が認識している食育に差があると感じている。子どもが認識している食育はどのようなものか把握をしていたら、教えて欲しい。

(事務局) 今回の調査では、中学生以上に食育の関心度をきいており、未就学児・小学生自身の食育の認識については把握できていない。

(委員) 目標項目⑩「地域等で共食したいと思う人が共食する割合の増加」について、18歳以上においては新年会や送別会等の食事会も含まれるのではないかと考えられ、その場合はもう少し割合が高くなると考えている。

(事務局) 今回の質問では、注釈をつけており、例のなかに「職場でのランチ会」等も含めているが、この結果となっている。

(委員) 学校の食育における児童の反応を知りたい。

(委員) 学校では、学級活動の中で学年ごとにテーマを決めて食育の取組をしており、好き嫌いのことやおはしの使い方等について授業をすることで、児童への意識づけや行動変容につながっていると感じている。
一方で、定着が出来ていないと感じており、家庭との連携が大事になると考えている。

(委員) 定着するために取り組んでいることはあるか。

(委員) 担任の先生と連携して、継続した声掛け等は行っている。

2 次期かごしま市食育推進計画の策定について

②施策の体系(案)について

(委員) 大人の食育について、国の食育実践優良法人に認定されている鹿児島の企業は1社であり、これから増やすために働きかけが必要だと考える。
例えば、食育推進ネットワークの会員への呼びかけなど

(事務局) 鹿児島市でも次期計画に盛り込み、取組を行っていきたいと考えているので、食育推進ネットワークへの声掛け含め、働きかけの助言があればお伺いできればと思う。

(委員) 20～30代や一人暮らしの高齢者等は夕方の割引セールがあるスーパー等に行っている印象があるので、スーパーやコンビニ等のお弁当の選び方に関する食育の取組があると良いと感じる。

(委員) 栄養士会の取り組みの中で、有機農産物を活用したクッキング講座を実施しており、農業や流通、病態に応じた食事等のテーマを設けているので、大人の食育に活用してほしい。

(委員) 農林漁業体験活動への支援について、どのようなことに取り組むのか。
現在、食農教育として、小・中学生を対象にアグリスクールにおいて田植えから収穫の体験やアグリセンターにおいて収穫体験や芋ほり等を行っており、今年から大人も参加できる取組を始めている。
また、学校や幼稚園等の食農教育では、出前授業や収穫体験等を通して、子ども達に食に関心をもってもらう取組を行っている。

(事務局) ワーキンググループでは、運営する方の高齢化等により、農林漁業体験の機会が減少しているのではないかと考えており、国も市も体験している人の割合が減少しているため、次期計画で取組を強化したいと考えている。

- | | |
|--|---|
| | <p>(委員) 国の方針をみて、大人のアグリスクール等に取り組んでいる団体等がでてきていると感じている。</p> <p>(委員) 学校の遠足等で農林漁業体験を実施していたこともあり、学校への情報提供ができると連携ができるのではないかと思う。</p> <p>(委員) 大人への農林漁業体験のツアー等があれば、市民のひろば等を通して広報してもらえると参加につながると思う。</p> <p>(委員) 県において、食育支援体制を構築しており、食育支援ができる人のリスト等もあるので、活用いただければと思う。</p> |
|--|---|